



〔写真解説〕国宝 唐鞍（手向山八幡宮）

和鞍に比べて非常に華やかに荘厳された唐風の飾り鞍。手搔会を初めてする神社祭礼の威儀具として重要な位置を占めた。本具は、馬具の一式が完備しており、唐鞍の全容が窺える鎌倉期の貴重な遺品である。

特別陳列 大和の神々と美術

—舞楽面と馬具を中心に—

東新館（南） 1月4日(火)～1月23日(日)

特別陳列 東大寺二月堂とお水取り

東新館（南）

2月22日(火)～3月20日(月/祝)

特別陳列 経塚出土陶磁展 6

九州地方に埋納されたやきもの

東新館（北） 1月25日(火)～2月20日(日)

平常展 仏教美術の名品

西新館

1月4日(火)～4月2日(日)

特別陳列

大和の神々と美術 —舞楽面と馬具を中心に—

東新館（南） 1月4日(火)～1月23日(日)

大和の国に所在する数多くの古社のうち、今回は春日大社と手向山八幡宮のご所蔵になる名宝に関連作品をくわえつつ展示します。

春日大社関連の作品としては、同社で行われた舞楽会所用の面、宮曼荼羅などの絵画、蒔絵手箱や舍利厨子などの工芸品を、また手向山八幡宮関連の作品としては、国宝・唐鞍をはじめとする馬具などの工芸品と、春日大社同様に数多く伝世する舞楽面等の彫刻作品を展示します。

春日大社・手向山八幡宮の両社にゆかりの、質量ともに優れた文化財をご観覧ください。



◎舞楽面・地久（春日大社）

特別陳列

経塚出土陶磁展 6 九州地方に埋納されたやきもの

東新館（北） 1月25日(火)～2月20日(日)

平成7年以来5年連続して開催した「経塚出土陶磁展」シリーズの最終回の企画です。今回は、近畿地方と並ぶ経塚造営の中心地である九州地方を取り上げます。この特別陳列では、九州地方出土の経塚遺物のうちで、年代の明確なものやそれに準じる代表的な陶磁器を中心に、経巻や銅製経筒・銅鏡などの伴出遺物も併せて陳列します。これによって、九州地方における平安時代後期の陶磁器と経塚遺物の諸相をご紹介します。



◎四王寺山経塚出土褐釉陶器(宇美八幡宮)

特別陳列

東大寺二月堂とお水取り

東新館（南） 2月22日(火)～3月20日（月／祝）

奈良に春を呼ぶ行事として名高い「お水取り」は、東大寺二月堂において十一面観音に悔過（仏に過ちを悔いること）をする行法です。この「お水取り」が行われる時期に合わせ、東大寺二月堂とお水取りに関連する彫刻・絵画・書跡・工芸品・考古遺品などを展示します。



◎東大寺二月堂本尊光背〈部分〉（東大寺）

平常展

仏教美術の名品

西新館 1月4日(火)～

西新館では、彫刻・絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に、名品の展示を行っています。なお、本館は改修工事のために閉館中です。

特別陳列 大和の神々と美術 ―舞楽面と馬具を中心に― 東新館（南）

【彫刻】◎舞楽面・皇仁庭、◎同・新鳥蘇、◎同・地久、◎同・納曾利、◎同・散手、◎同・貴徳鯉口、◎同・採桑老、同・還城楽、同・陵王（以上春日大社）、◎舞楽面・胡飲酒、◎同・皇仁庭、◎同・胡徳楽、◎同・胡徳楽瓶子取、◎同・貴徳、◎同・散手、◎同・二ノ舞（腫面）、◎同・採桑老、狛犬（以上手向山八幡宮）
【絵画】◎春日宮曼荼羅（南市町）、春日鹿曼荼羅（当館）、鹿島立神影図、板絵牛頭天王曼荼羅、春日権現験記絵〈春日本〉（2巻）、春日権現験記絵披見台（以上春日大社）
【工芸】◎五輪塔嵌装舍利厨子（不退寺）、◎春日神鹿御正体（細見美術館）、●籠手（春日大社）、●唐鞍、◎黒漆海松門文螺鈿鞍、三鼓胴、舞楽装束 胡蝶・迦陵頻残欠（以上手向山八幡宮）

特別陳列 経塚出土陶磁展 6 九州地方に埋納されたやきもの 東新館（北）

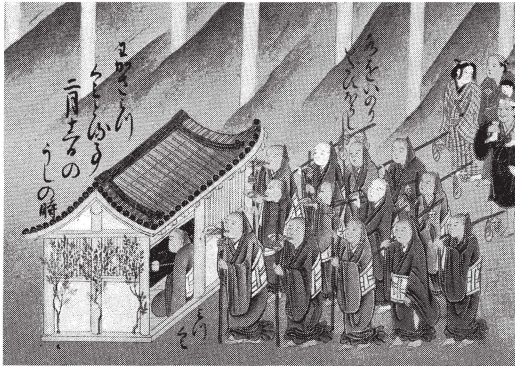
福岡・ベラ山経塚遺物〈永久6年〉、福岡・永満寺経塚遺物〈永久元年、3年〉（以上東京国立博物館）、◎福岡・四王寺山経塚遺物〈天永2年、3年〉（宇美八幡宮）、◎伝福岡・四王寺山経塚出土青磁経筒（田中丸コレクション）、伝福岡・四王寺山経塚出土青白磁経筒（京都国立博物館）、伝福岡・四王寺山経塚出土白磁経筒（鎌倉古陶美術館）、福岡・原経塚遺物〈仁平2年〉、◎福岡・太宰府天満宮経塚出土土製彩绘経筒、福岡・太宰府経塚遺物〈永久2年〉（以上東京国立博物館）、福岡・武蔵寺経塚遺物（武蔵寺）、福岡・京ノ隈遺跡第1号経塚遺物（福岡市教育委員会）、伝福岡・西油山経塚出土陶製経筒（京都国立博物館）、伝福岡・早良郡出土陶製経筒（奈良国立博物館）、福岡・丸山経塚遺物（福岡・下香楽区）、伝福岡・白山神社経塚遺物（九州歴史資料館）、◎福岡・求菩提山経塚遺物（国玉神社）、伝福岡・求菩提山経塚出土土製経筒（奈良国立博物館）、佐賀・霊仙寺経塚遺物（康治元年）（東脊振村教育委員会）、佐賀・鏡神社経塚遺物（鏡神社）、佐賀・山崎経塚遺物（佐賀県立博物館）、佐賀・片山経塚遺物（祐徳博物館）、大分・山ノ下経塚遺物〈天永元年〉（東京国立博物館）、熊本・千光寺経塚出土青磁経筒、熊本・宮地経塚出土青磁経筒（以上個人蔵）、宮崎・都万神社境内出土陶製経筒（西都市教育委員会）、宮崎・竹淵経塚遺物（宮崎県総合博物館西都原資料館）



伝福岡・早良郡出土陶製経筒(当館)

特別陳列 東大寺二月堂とお水取り 東新館（南）

◎二月堂本尊光背、二月堂本尊光背裏面拓本、二月堂本尊天衣片（以上東大寺）、◎覚禅鈔〈十一面観音法〉（西南院）、◎類秘抄〈十一面巻〉（当館）、二月堂縁起、二月堂縁起〈断簡〉、二月堂曼荼羅（以上東大寺）、二月堂お水取り絵巻（個人蔵）、紺紙銀字華嚴経〈二月堂焼経〉（当館）、二月堂修中過去帳、◎二月堂修中練行衆日記 巻第五・七・廿、◎六時之差帳、◎鏡〈堂司鈴〉、金銅柄香炉、◎香水杓、香水壺、二月堂練行衆盤、◎金銅鉢、鬼瓦〈二月堂仏餉屋出土〉、緑釉軒平瓦片〈二月堂仏餉屋出土〉、二彩陶器片〈二月堂仏餉屋出土〉、二彩水波文埴〈二月堂仏餉屋出土〉（以上東大寺）、緑釉水波文埴〈二月堂付近出土〉（個人蔵）、墨書土器〈二月堂仏餉屋出土〉、貨銭〈二月堂仏餉屋出土〉（以上東大寺）



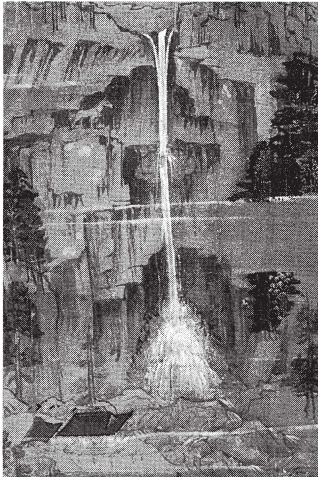
二月堂お水取り絵巻く部分〉（個人蔵）

特別出陳 西新館

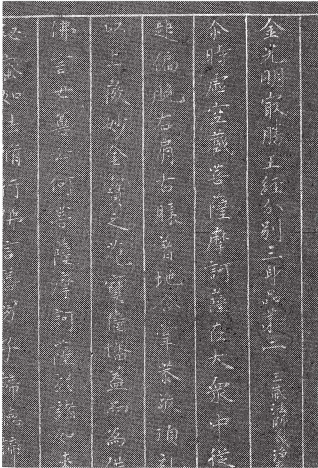
◎薬師三尊像（薬師寺講堂）

平常展 仏教美術の名品 西新館

【考古】深鉢形土器〈伝茨城県出土〉（当館）、銅鐸（妙国寺）、装飾付器台付子持須恵器（当館）、◎伝福岡県出土経筒・外筒〈保延7年銘〉、伝福岡県四王寺山経塚出土経筒、伝愛媛県北条市出土陶製経筒、伝和歌山県白浜経塚出土陶製外容器、和歌山・粉河経塚出土品、東京・松蓮寺経塚出土経筒〈長寛元年銘・建久4年銘〉（以上当館）、東京・松蓮寺経塚出土経筒〈永万元年銘〉（個人蔵）、福島・木幡山経塚出土経筒・外筒、銅経筒〈平治元年銘〉（以上当館）、◎奈良・金峯山経塚出土紺紙金字法華経（金峯神社）、和歌山・粉河経塚出土紙本墨書法華経、伝大分県出土紙本朱書経（以上当館）、◎大分・長安寺経塚出土銅板経（長安寺）、福岡・飯盛山経塚出土瓦経、愛媛・大日堂経塚出土青石経、鳥取・智積寺経塚出土泥塔経、黄釉褐彩貼花人物文水注、白釉緑彩水注、青磁双耳瓶、青白磁水注、青白磁花唐子文輪花鉢、青白磁花唐子文鉢（以上当館）、1／4～1／30: ◎佐井寺僧道葉墓出土品、◎出雲萩杵古墓出土品（以上当館）、◎青磁鉢（正暦寺）、2／1～4／2: ◎伝福岡県出土経筒・如来像〈永久4年銘〉、◎長崎・鉢形嶺経塚出土弥勒如来像（以上当館）
【彫刻】●木造薬師如来立像（元興寺）、◎木造聖観音立像（観心寺）、◎木造阿弥陀如来立像（個人蔵）、木造阿弥陀如来坐像（当館）、木造阿弥陀如来坐像（金剛寺）、◎銅造阿弥陀如来及両脇侍像（東京国立博物館）、◎木造釈迦如来坐像（法隆寺）、◎木造如来坐像（興福寺）、銅造釈迦如来坐像（園城寺）、木造釈迦如来立像〈出山釈迦〉、◎木造釈迦如来立像〈清凉寺式〉、木造阿弥陀如来立像〈裸形阿弥陀〉（以上当館）、◎木造地藏菩薩立像（大福寺）、木造地藏菩薩立像（十市町自治会）、◎木造不動明王坐像（園城寺）、銅造不動明王立像、木造広目天立像（以上当館）、◎木造増長天立像（法明寺）、◎木造千手観音立像〈准胝観音〉、◎木造聖観音立像（以上個人蔵）、◎木造大黒天立像（西大寺）、木造大黒天立像（館蔵）、◎木造菩薩面（浄土寺）、◎木造伎楽面（東大寺）
【絵画】1／4～1／30: 伊勢両宮曼荼羅（正暦寺）、◎板絵神像（薬師寺）、●一遍聖絵（清浄光寺・歓喜光寺）、●阿弥陀三尊及童子像（法華寺）、◎最勝王経十界宝塔曼荼羅（大長寿院）、◎扇面法華経（西教寺）、◎毘沙門天像（知恩院）、●十二天像〈毘沙門天・月天〉（西大寺）、◎善女龍王像（大通寺）、2／1～2／27: ◎仏涅槃図（浄土寺）、◎釈迦如来像〈仁王経本尊〉（西大寺）、◎釈迦如来像〈持鉢釈迦〉（西教寺）、◎絵因果経（当館）、◎楊柳観音像（聖衆来迎寺）、不空羼索観音四天王像（一乗寺）、◎如意輪観音像（宝厳寺）、◎千手観音像・木造観音立像（当館）、観音・地藏菩薩像（南法華寺）、◎地藏菩薩像（地藏院）、◎地藏十王像（能満院）、真言八祖像（当館）、2／29～4／2: ◎法華経宝塔曼荼羅（談山神社）、◎胎蔵図像（当館）、◎一字金輪曼荼羅（南法華寺）、◎虚空蔵菩薩像（細見美術財団）、◎文殊菩薩像（宝寿院）、烏枢沙摩明王像（当館）、◎華嚴五十五所絵（東大寺）、◎法然上人行状絵図（奥院）、●伝教大師像・慈覚大師像〈天台高僧像の内〉（一乗寺）、◎弘法大師像〈真言八祖像の内〉（神護寺）、◎親鸞聖人像（当館）、◎興正菩薩像（新大仏寺）、◎法燈国師像（興国寺）
【書跡】1／4～1／30: ●福州温州台州求法目録、●越州都督府過所・尚書省司門過所、●円珍度縁并公験、●伝教大師略伝、●金光明経文句巻下（以上園城寺）、●紫紙金字金光明最勝王経（当館）、大悲経〈五月一日経〉（正暦寺）、別訳雑阿含経巻第十〈五月十一日経〉（宝厳寺）、●大毘盧遮那成仏神変加持経〈吉備由利願経〉（西大寺）、紺紙金銀交書大般若経巻第四百六十〈中尊寺経〉、紺紙金字大智度論巻第七十四〈神護寺経〉、大毘盧遮那成仏神変加持経巻第四〈消息経〉（以上当館）、2／1～2／27: ◎大般若経〈長屋王願経〉（瑞光寺）、大般若経巻第四百十六（施福寺）、◎大毘婆沙論巻第廿三〈五月一日経〉、●賢愚経〈大聖武〉（以上東大寺）、◎増一阿含経巻第三十〈善光寺印経〉（正暦寺）、●金光明最勝王経〈百済豊虫願経〉（西大寺）、般若心経〈隅寺心経〉（海龍王寺）、◎大般若経〈魚養経〉（薬師寺）、◎聖徳太子伝暦（徳島・本願寺）、◎雑筆集（当館）、2／29～4／2: ◎慈覚大師伝（三干院）、◎造東大寺司請経牒、◎弘福寺牒並大和国判（以上当館）、海龍王経（海龍王寺）、瑜伽師地論巻第八十九〈舍人国足願経〉（当館）、大般若経巻第四百七十一（談山神社）、大威徳陀羅尼経〈法隆寺一切経〉（当館）、◎紫紙金字法華経（乘法寺）、◎紫紙金字金光明最勝王経巻第二〈後宇多天皇願経〉（当館）、●法華経（長谷寺）、大般若経巻第四百十七〈東大寺八幡経〉（当館）
【工芸】◎金銅透彫舍利容器（西大寺）、◎金銅火焰宝珠形舍利容器（海龍王寺）、金銅金亀舍利塔（長谷寺）、木製獅子舍利塔（金剛寺）、百万塔および陀羅尼（当館）、◎銅経筒（施福寺）、◎金銅透彫経筒（万徳寺）、●金銅透彫華鬘（中尊寺金色院）、◎金銅種子華鬘、金銅尾長鳥文華鬘（以上当館）、金銅透彫幡（個人蔵）、◎金銅透彫華鬘（神照寺）、響銅王子形水瓶〈承盤付き〉、銅王子形水瓶、銅王子形水瓶くかぶら形、金銅仙蓋形水瓶（以上当館）、◎銅三具足（聖衆来迎寺）、◎金銅透彫華籠（神照寺）、◎紙胎漆塗彩絵華籠、◎黒漆戒体箱（以上万徳寺）、金銅説相箱（個人蔵）●金銅密教法具（厳島神社）、独鈷杵、三鈷杵、五鈷杵（以上当館）、◎独鈷鈴、◎三鈷鈴（以上個人蔵）、五鈷鈴（当館）、◎宝珠鈴（個人蔵）塔鈴、◎梵鐘、梵鐘、刺繍種子阿弥陀三尊像、黒漆螺蝶鈿卓、金銅火舎、金銅花瓶、黒漆磬架、孔雀文磬（以上当館）



●一遍聖絵〔那智の滝部分〕（清浄光寺・歓喜光寺）



◎紫紙金字金光明最勝王経巻第二〔後宇多天皇願経〕（当館）

西大寺の大黒天像

七福神の一として広く信仰される大黒天は、本来は仏教の守護神であり、仏像の四分類では天部に含まれる。胎蔵界曼荼羅では大日如來の化身として三面六臂の忿怒の像で表されるが、それとは別に、僧院の食料を豊かに保つ財福神としてその厨房や倉庫に木彫像を安置する風があったことを、インドに求法した唐僧義浄（635～713）が伝えている。

義浄はインドからの帰途四年間滞在したスマトラで、「南海寄帰内法伝」を記述し、インド南海等で行われた僧院での生活規範を中国にもたらしただのであるが、その「南海寄帰内法伝」には、寺の厨房の柱や倉庫の門前に木彫りの像を造り、それに油を塗って真っ黒になるまで祈願するところから、それを大黒神と称すると記している。またその像は片足を踏み下げて床机に腰掛け、金袋を持つ姿であるとも記しているから、今では寺院だけでなく家庭の福の神としても信仰される大黒天は、そもそもインド帰りの義浄が七世紀末の中国に紹介した新しい仏像文化であったことが知られる。

この財福神としての大黒天は、中国では揚子江流域の江南地方を中心に広まったことが、「南海寄帰内法伝」に出ているが、日本への伝来は江南仏教の聖地天台山に学んだ最澄が関係したらしく、比叡山の政所には最澄造立と伝える木造大黒天像がまつられていたと、「叡岳要記」に出ている。現存の大黒天像で最も時代の古い福岡観世音寺像は、比叡山の最澄造立像の形式を伝えるもので、右手を拳にして腰に当て、左の肩に大きな袋を担いでいる。

西大寺の大黒天像は、西大寺中興の叡尊が建治二年（1276）に仏師善春に造らせ厨房に安置したもので、像容は観世音寺像と同じく袋を担ぐ財福神の姿を示す。ヒノキの寄木造りで、頭体部を前後二材矧ぎとし、像内には納入品が籠められていた。納入品には經典や梵字曼荼羅、木製の小型五輪塔婆、銅製の弁才天懸仏のほか、曲げ物容器に納めた小さな木彫大黒天像がある。特に袋を担ぎ、片足を踏み下げて床机に腰掛けた姿の納入小像は、「南海寄帰内法伝」に出る像容と一致するので、これによって義浄が紹介した大黒天の根本像の姿を想定することもできる。

大黒天は福の神の代表として広く信仰され、たくさんの像が造られているが、そのお腹のなかにもう一つの大黒天を納め、さらに七福神のうちの唯一の女性神である弁才天まで納入した例は、西大寺像のほかには知られない。三体の福神が合体した西大寺の大黒天は、おそらく最強の福神像といえるのではないかな。この納入品については、地下廻廊のタッチパネル式情報端末器において、「ぶつぞう入門」の「仏像のおなかには宝物でいっぱい」で紹介しているので、どんなものか確認することができる。

当館が展示している大黒天像には、西大寺像のほかに、大変珍しい走り大黒天像もある。大黒天像の展示コーナーは、新春の博物館で、先ず訪れて欲しい場所である。

（松浦正昭）



西大寺 大黒天像

◆公開講座

午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

2月5日(土) 九州の経塚と出土陶磁器

福岡大学教授 小田富士雄

◆ギャラリートーク

いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

毎月第2水曜日に実施しています。

1月12日(水) 春日信仰の絵画

美術室長 中島 博

2月9日(水) 九州地方の経塚出土陶磁器

考古室長 井口 喜晴

3月8日(水) 東大寺二月堂とお水取り

資料管理研究室長 西山 厚

◆奈良国立博物館友の会 平成12年度会員募集

募集要項および振込用紙を郵送希望の方は、返信用封筒(80円切手貼付・宛名明記)を同封の上、当館「友の会」係までお申し込みください(現会員の方には、継続案内を1月中旬にお送りいたします)。

会員の特展：①奈良・東京・京都国立博物館を無料で観覧できます。

②奈良国立博物館発行の展覧会カタログ等の出版物を各1部、1割引で購入できます。ただし、出版物によっては割引できない場合もありますので、ミュージアムショップでお確かめください。

会 費：一般 1800円 学生 1150円(うち50円は会員証郵送料)

募 集 期 間：1月31日(月)～2月11日(金)

申 込 方 法：所定の振込用紙に必要事項(住所・氏名(必ずふりがなを振ってください)・電話番号と、通信欄に年齢・性別・職業または学校名、学生の方は学生証番号)を記入の上、上記期間内に最寄りの郵便局で、上記金額をお振込みください。

振込宛先 奈良国立博物館友の会 口座番号00990-0-153639

(注 意) *期間厳守。期間が過ぎると口座は閉鎖されます。

*1枚の振込用紙で複数の方が申し込むことはできません。

◎この件に関するお問い合わせは、企画普及室友の会係 TEL0742-22-7774 まで。

なお、平成13年4月から実施される国立博物館の独立行政法人化移行に伴い、現行の「友の会」の制度を改組する予定です。

◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室で行っています。解説は、開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の4回(約30分間)を予定しています。

この他「ブレ見学講座」として、コンピューター画像などで仏像鑑賞の基礎知識を解説する「ぶつぞう入門」(30分)と、東大寺や法隆寺など、寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組み合わせることができます。予約をすれば講堂または学習室でボランティアが画面に合わせて解説をします。お問合せは学習普及専門官(Tel0742-22-7008)まで。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

休 館 日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。)

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料。1月9日、2月3日、3月12日は無料観覧日。

平常展		大 人	高・大生	小・中生
	一 般	420円	130円	70円
	団 体	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上。特別陳列は、平常展料金でご覧いただけます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。